



『丸亀藩興浜陣屋(網干陣屋)』をたずねて

17 大覚寺荒神社本殿

寛永12年(1635)建築、一間社流造総檜造・柿葺。覆屋内部に安置。寛永11年棟札・元禄16年墨書銘神像台座1基・延宝5年墨書銘厨子1基が附指定。大覚寺は天福元年(1233)定翁隆禅上人開基、古網干(網干区垣内)に釈迦堂を建立、のち鶴林山光接院と称したという。永正年間(1504-21)に真言宗から浄土宗に転宗、天文3年(1534)朝日山の戦いで罹災、弘治年間(1555~58)7世空鑿堯淳上人が網干郷(網干村)が祀っていた三宝荒神の地(現在地)に移転し鶴立山大覚寺と称したという。6月下旬に大覚寺荒神会(荒神祭)があり住職が荒神社前で読経し地域住民は参拝したのち境内に造られた櫓の周りで網干音頭、播州段文音頭に合わせて踊る。網干ゆかた祭りとも称される。



16 大覚寺総門



17 荒神社本殿

18 大覚寺本堂

寛永11年(1634)建築、正面9間、側面9間・正面1間向拝付き・入母屋造・平入・本瓦葺。寛永11年棟札が附指定。正面・両側面に広縁を配した浄土宗西山禅林寺派の大規模寺院本堂である。本堂正面の扁額「大覚寺」は三藐院近衛信尹揮毫、本堂内陣正面の扁額「鶴立山」は後西院第11皇女の宝鏡寺宮(本覚院宮)揮毫。大覚寺は江戸時代朱印地30石、葵紋を許されていた。



18,19 大覚寺本堂と観音堂

19 大覚寺観音堂

寛文11年(1671)建築、正面1間、側面1間、背面は2間で北間に本堂から渡り廊下を接続。入母屋造・平入・本瓦葺。極めて珍しい小屋組という。寛文11年棟札が附指定。

20 ノコギリ刃状家並

大覚寺の東側、関町筋の南端から西の筋は遠見遮断の道でいわゆるノコギリ刃状の家並を遺す。姫路城下西側の外町の農人町や外曲輪東北域の金屋町・福居町等にノコギリ刃状の家並がみられる。



20 ノコギリ刃状の家並

21 松本稲荷大明神跡

網干沖ノ浜村(興浜村)の魚屋藤兵衛が稲荷本宮(伏見稲荷大社)の神官、中津瀬陸奥守忠勝に懇望し、安政4年(1857)興浜に松本社正一位稲荷大明神を勧請。さらに安政6年(1859)に正中山(中山法華経寺(現千葉県市川市)の直轄法久山日光の祈禱札を祀っていた。

22 信浄寺

浄土宗西山禅林寺派。享保年間(1716~36)に蓮空が信浄庵を中興した。



22 信浄寺

23 浄念寺

浄土真宗本願寺派。永正3年(1506)玄哲開基、元禄5年(1692)木仏寺号。



23 浄念寺

24 大高講行者堂跡

大峰山の講行者堂跡。



24 大高講行者堂跡

25 福壽院庚申堂(湾洞神社)跡

福壽院庚申堂は揖保川と湾洞川分岐点付近に祀られていたといひ明治に至り湾洞神社と改称され金刀比羅神社に合祀された。

26 裏町筋、27 関町筋、28 北中ノ町筋、29 南中ノ町筋、30 南町筋

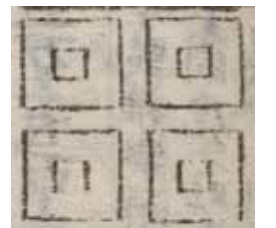
明治初期の「興浜・新在家指図」(個人蔵)をみると大覚寺を中心に北側に東西の裏町筋、東側に関町筋、西側に北中ノ町・南中ノ町・南町筋が記され、遠見遮断、丁字路、鍵の手、食い違い等の形状が遺る。

「文化財をたずねて」47号参照。



宇多源氏佐々木氏は近江国佐々木庄(近江八幡市付近)を苗字の地とし、源頼朝挙兵に従った佐々木定綱は鎌倉幕府重臣となり近江・長門・石見・隠岐四カ国守護職に補任された。定綱の嫡男広綱は承久の乱で京方となり没落、四男信綱は幕府方として近江守護職に補任された。信綱のあと北近江六郡と都の京極高辻の館を相続し幕府評定衆となった氏信は佐々木京極氏と称され京極氏の祖となる。その後足利尊氏の挙兵に従い室町幕府重臣となった佐々木京極高氏(導誉)は近江・出雲など六ヶ国守護職に補任され婆娑羅大名として著名だが、戦国時代に京極騒乱(家督争い)などにより衰退、足利義昭の御供衆であった京極高吉の子高次は姉松の丸殿が秀吉側室となり浅井長政・お市の方の次女初(常高院)を正室とし大津城主6万石の大名となり関ヶ原の戦い後は小浜城主9万2千石となった。高次の嫡子忠高は寛永

11年(1634)出雲・隠岐2カ国26万石の松江藩主となったが、寛永14年(1637)に急死したため幕府は甥の高和に家督を相続させ龍野藩6万石に減転封とし、さらに万治元年(1658)に高和を讃岐丸亀藩6万石に転封させた。丸亀藩の領地は讃岐5万石と播磨1万石(揖東郡7ヶ村・揖西郡21ヶ村)であったため播磨1万石の支配地として網干興浜に陣屋を設置し網干郡代を置いたのである。安政5年(1858)の「西讃府誌」は丸亀転封に際し秀吉の別館であった鶴松亭を治所(ごじんや)にしたと記す。さて網干郷・網干村は信長・秀吉・家康三代の禁制を有する地で寛永14年(1634)龍野藩京極家領となったが、万治元年(1658)丸亀転封の際に新在家が分村されて幕府領となり、興浜・余子浜(垣内を含む)が丸亀藩領となった。丸亀藩京極家2代高豊は寛文12年(1672)京極氏の祖氏信の故地を得るため丸亀藩領大江島・余子浜の2ヶ村と近江坂田郡清滝村・大野木村(現米原市)2ヶ村との交換を幕府に請願し認められた。このとき余子浜・大江島が幕府領となり新在家が龍野藩脇坂家領となったのである。



京極家家紋(寛政武鑑)上(定紋:平四ツ目紋)下(副紋:五三桐紋)

① 奥本傳吉頌徳碑

昭和3年(1928)建立、神楽江薫撰文。奥本傳吉は明治41年(1908)6月から18年9ヶ月網干町長を務めた。



② 網干商工会館

① 奥本傳吉頌徳碑

② 網干商工会館

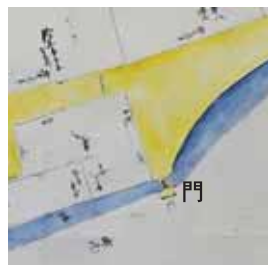
大正13年(1924)網干商工同友会が結成され昭和15年(1940)洋風の会館建設、2階バルコニーの突き出し玄関で内部もほぼ竣工当時の姿をとどめている。

③ 興浜陣屋外郭跡

「明治3年網干御陣屋外郭見取図写」(姫路城内図書館史料整理室蔵「渡邊聰氏文書」、以下「陣屋外郭図」と略す)に東側は堀割、北側は御囲土堤と松林、南側は堀で囲まれ石橋で堀を南に渡ると門があり浜街道に接続した。南西部は東側を溝で町地と区切り藩校、稽古場、社地、貢米御蔵などがあり、南側は浜街道に面して築地塀で区切り東端に門、門番所、高札場を置いた。



④ 外郭内の明輪館(明倫館)と稽古場



③ 外郭東部南側

④ 興浜陣屋外郭明輪館(明倫館)跡

丸亀城下に寛政6年(1794)藩校正明館が設立され明治3年明倫館と称した。「陣屋外郭図」に明輪館と稽古場が記され興浜陣屋にも藩校明輪館(明倫館)が置かれていた。



⑤ 貢米御蔵・津出シ門・雁木跡

⑤ 貢米御蔵・津出シ門・雁木跡

揖保川に面して年貢米を納める「貢米御蔵」がハの字方に2棟設置され、「津出シ門」をでると船着場の「雁木」が設けられていた。

⑥ 興浜陣屋内郭御殿屋敷跡

「網干御陣屋図」(網干興浜自治会文書、以下「陣屋内郭図」と略す)は侍屋敷・藩施設等を配置した外郭に対し藩主本陣となる内郭であり揖保川から浜街道まで御囲土堤と築地塀、浜街道沿いに築地塀をめぐらし内郭へは外郭の高札場の西側の門から入り長屋門を西に入る。長屋門を入ると屋敷玄関があり「御殿」と記される屋敷の一室が藩主居室として使われたとみられる。東側は貢米御蔵・長屋・浜街道沿いの小門を塀で仕切る。内郭北側に池があり、西と南に松が植えられていた。なお「陣屋」は狭義に「内郭」を指す場合、「内郭」「外郭」を指す場合があり、ここでは「内郭」「外郭」「興浜の町場」の総体を「陣屋」概念で捉える。



⑥⑦ 「網干御陣屋図」

⑦ 陣屋内郭角櫓跡

浜街道と揖保川を扼するように陣屋内郭の西南隅に「角櫓」があった。

⑧ 金刀比羅神社

興浜の鎮守。魚吹八幡神社は興浜はじめ25地区の総鎮守。明治3年(1870)外郭図に「社地」とあり陣屋で金刀比羅神が祀られていたとみられ、明治41年(1908)湾洞神社(福壽院庚申堂)を合祀、境内社の稲荷神社を移祀、さらに興浜南部から恵美酒神社を合祀、境内に大正5年金刀比羅・湾洞・恵美酒神社の合祀祈念碑がある。



⑧ 金刀比羅神社

⑨ 丸亀藩興浜陣屋門資料館

昭和62年(1987)旧陣屋門の解体復元工事が行われた。興浜の檀尻庫として使われていたことからすると内郭南側の「御門」であったとみられる。⑭山本家住宅の公開にあわせて見学できる。



⑨ 丸亀藩興浜陣屋門資料館

⑩ 浜街道(室街道下道)

浜街道は明石城西の総門を出て明石川を渡河西国街道から分岐(現大観橋西詰付近)し室津に至る浜通りで「高砂飾磨津室津往還」ともいわれる。伊津で室街道上道(魚吹八幡神社門前を通る)と室街道下道(龍門寺門前を通る)が分岐、天満東端で合流、小坂で姫路に向かう室街道と飾磨津に向かう浜街道分岐。姫路城下からは網干道、室津道ともいう。



⑩ 浜街道揖保川の渡し

⑪ 浜街道揖保川渡場推定地

揖保川渡しは龍野や嵯崎で綱渡しであり網干でも綱渡しの伝承が残る。内郭図には櫓こぎの渡しが描かれている。網干船奉行配下に「御茶屋(興浜陣屋)渡し守」もあった。

⑫ 境橋跡

丸亀藩領興浜と龍野藩領新在家は網干川から南流する堀割を境とし、浜街道筋(本町筋)の堀割に境橋が架橋されていた。



⑫ 道標



⑫ 境橋

⑫ 境橋と道標

昭和60年(1985)道路拡張・下水工事の際に興浜側の浜街道に面する民家東側に移設された。民家南東隅に道標(右むろつ道 左ひめぢ道)を遺す。

⑬ 道標跡

浜街道はここで鍵の手の道となり北に進むと門があり堀を渡ると陣屋外郭の侍屋敷に至る。この地にあった道標(右むろつ 左ひめぢ)は丸亀藩興浜陣屋門資料館前に移設されている。

⑭ 山本家住宅

網干銀行頭取、網干町長であった山本真三氏が明治31年(1898)までに明治初期建築の木造つし二階建て主屋を購入し、大正7~9年(1918~20)に望楼付き和洋折衷館、離れ座敷、土蔵2棟を建築し付属屋(繋ぎ家)で接続した。特に望楼付き和洋折衷館と離れ座敷の内部はスティンドグラス、大理石、緻密な寄せ木など豪華な意匠がみられる。平成元年姫路市都市景観重要建築物等第1号。平成26年(2014)山本家より姫路市に寄贈。地元自治会等で網干歴史ロマンの会を組織し毎月第1・3日曜午前10時から午後4時に公開。ボランティアガイドの案内で見学する。



⑭ 和洋折衷館書斎



⑭ 山本家住宅外観

⑮ 旧水井家住宅

浜街道に面し総間取り13間、大正11年(1922)建築、黒漆喰塗り籠めの主屋の東端に門、西端に土蔵を置く。現在内部非公開。



⑮ 水井家住宅(左)と浜街道鍵の手

⑯ 大覚寺総門

17世紀後半の建築、一間一戸四脚門・切妻造・本瓦葺。記録に延宝3年(1675)建築、宝永元年(1704)本堂正面東向きに移築、その後現在地に移築という。伽藍整備や陣屋造営による影響を想定できる。⑯~⑲は大覚寺境内建造物として平成11年姫路市指定重要文化財。